「単機能ツール」から「3層ハイブリッド知財基盤」への進化

サマリアがもたらす特許業務の構造変革と次世代AI活用戦略

Gemini 4 Carbon 準拠

パテント・インテグレーション株式会社 最新アップデート（2026年秋）

Gemini Notebook

過去 (The Past)

「検索・読解・整理」の作業実行

- 検索式の試行錯誤
- 公報の取得と手動照合
- 日米審査経過（包袋）の確認
- 対比表や意見書への転記

現在 / 未来 (The Future)

「観点設計・仮説検証」の法的戦略判断

- 母集団のノイズ含有率の即時計算
- 自然言語による自律的段取り構築
- 「事業・権利化上の戦略」への集中

AIは専門家を代替するのではなく、考える・判断する工程への集中を可能にする。

Gemini Notebook

外部AI連携：サマリアMCP

- Claude, M365 Copilot, Gemini等から直接呼び出し
- 完全ZDR（非保持）、指示数消費なし

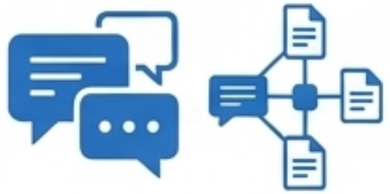
内蔵対話：サマリアAgent

- 社内完結（外部接続不要）
- 公報原図のインライン表示、成果物エディタでの直接編集・版管理

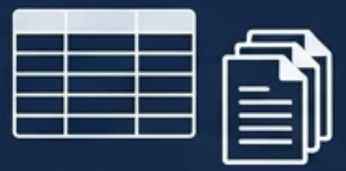
定型処理：サマリア本体

- 1億2,000万件超のDB
- 数百～12,000件のバッチ処理、無効化書面作成、定期監視（SDI）

外部AI連携：サマリアMCP
内蔵対話：サマリアAgent
定型処理：サマリア本体







特許・意匠・商標DB

審査認定・類語辞書

日米包袋・特許庁API

データベース群

10万件超の審査認定事例に基づく類語辞書、日米包袋・特許庁API連携

Gemini Notebook

【機能比較マトリクス】利用環境と業務特性に応じた使い分け

対話的探索

サマリア MCP
（2026年9月～）

環境:
外部AI (M365, ChatGPT等)

コスト/指示数 :
追加費用なし・消費枠ゼロ

セキュリティ:
完全ZDR (参照専用) 、非保存

最適業務:
条件を変えながらの探索、
社内文書×特許データの複合分析

自律調査

サマリア Agent β版
（2026年11月～）

環境:
サマリア標準Web画面内

コスト/指示数 :
消費あり (自律実行ステップに依存)

セキュリティ:
AWS内暗号化保存 (ISMS認証)

最適業務:
外部AI不可環境での利用、
原図確認を伴う拒絶理由整理

定型・大量処理

サマリア 本体
（既存基盤）

環境:
サマリア標準Web画面内

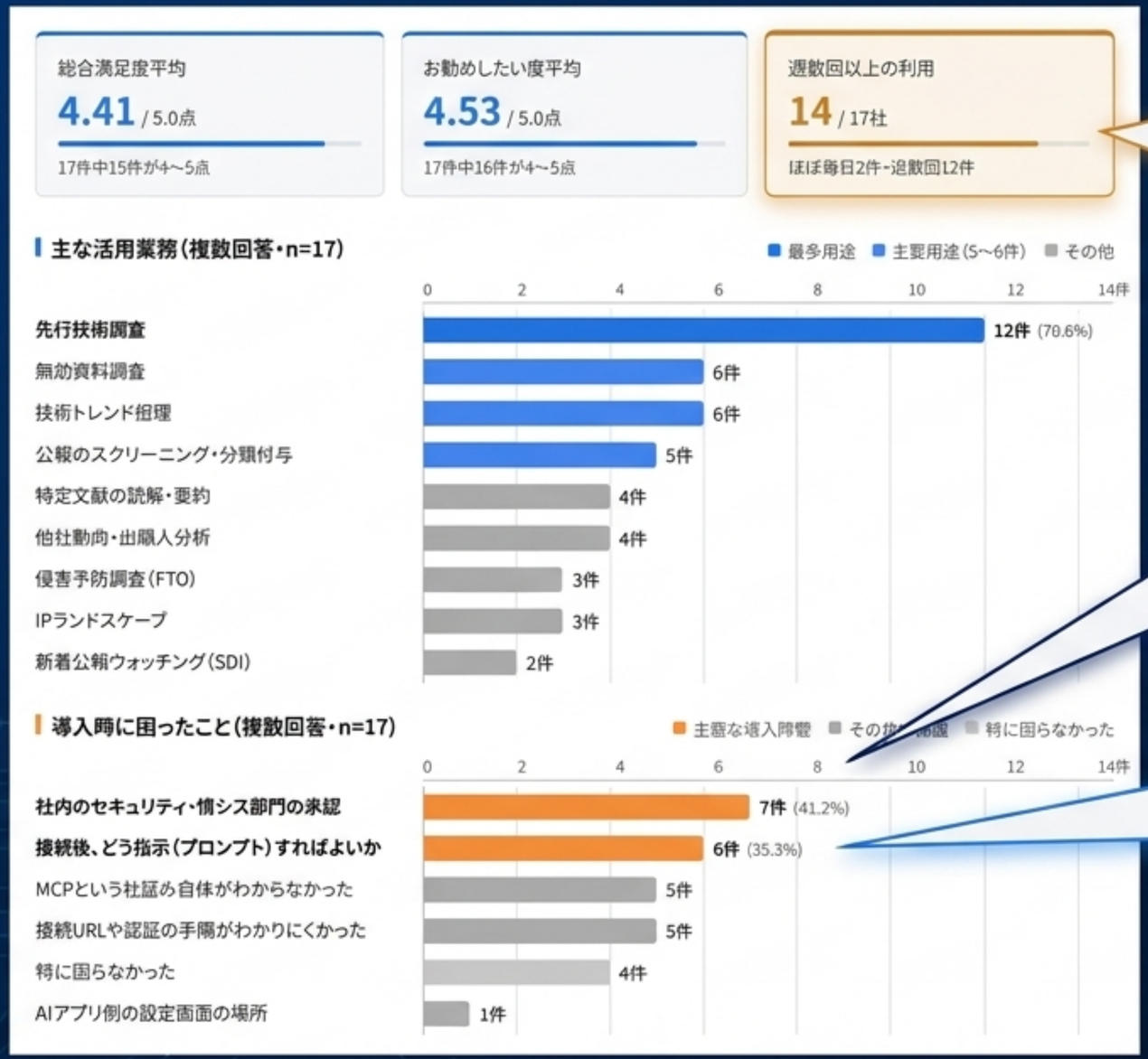
コスト/指示数 :
消費あり (非同期処理で1/2圧縮可)

セキュリティ:
AWS内暗号化保存

最適業務:
網羅的スクリーニング、SDI、
詳細クレームチャート作成

Gemini Notebook

現場のリアル：導入初期の利用実態と障壁



高い定着率の理由

「17社中14社が週数回以上利用」

自然言語の手軽さに加え、AIがヒット件数と文献を照合して「ノイズ含有率」を自動計算。母集団設計の反復サイクルが劇的に短縮される。

最大の導入障壁

「社内のセキュリティ・情シス部門の承認（41.2%）」

自由度の高い外部AI連携に対するガバナンス懸念。この解決策が「サマリアAgent」および「完全ZDR」アーキテクチャとなる。

運用の壁

「どう指示（プロンプト）すればよいか（35.3%）」

業務別プロンプトの強い需要。Agentのナビゲーション機能と社内テンプレートの資産化による補完が必須。

データ出典：パテント・インテグレーション株式会社（サマリアMCP利用者

Gemini Notebook

【調査の変革】「検索実行」から「観点設計」への5ステップ

AI ×人間

1. 観点設計

開発資料（例：「透明なミルクティー」）から「飲料の透明性」「乳風味付与」など具象的観点へ対話で分解。

AI 主導

2. 検索式の試行

FTOか先行技術かに応じ、条件調整とノイズ計算を対話的に反復。

AI 主導

3. 分離読解

「請求項（権利範囲）」と「明細書（開示技術）」を切り分けて取得・整理。

人間 主導

4. 動向集計・初期議論

約20分で出願人×公開年の動向を整理し、R&D部門との議論を開始。

AI ×人間

5. 本体での確定処理

サマリア本体へ移行し、無効論ヒートマップや属否評価の大量バッチ処理を確定。

Gemini Notebook

技術的ブレイクスルー：類語シソーラスと再現率の限界値



ベンチマーク結果（特許検索競技大会過去問）

- 確認件数を上位30件に絞った状態で「再現率100%」を達成
- 査読時間を約7割削減（全26件の検証事例）

WARNING: 実務上の留意点

- 統計的有意性にはサンプル不足
- 過去問特有のデータリーク・リスクが存在

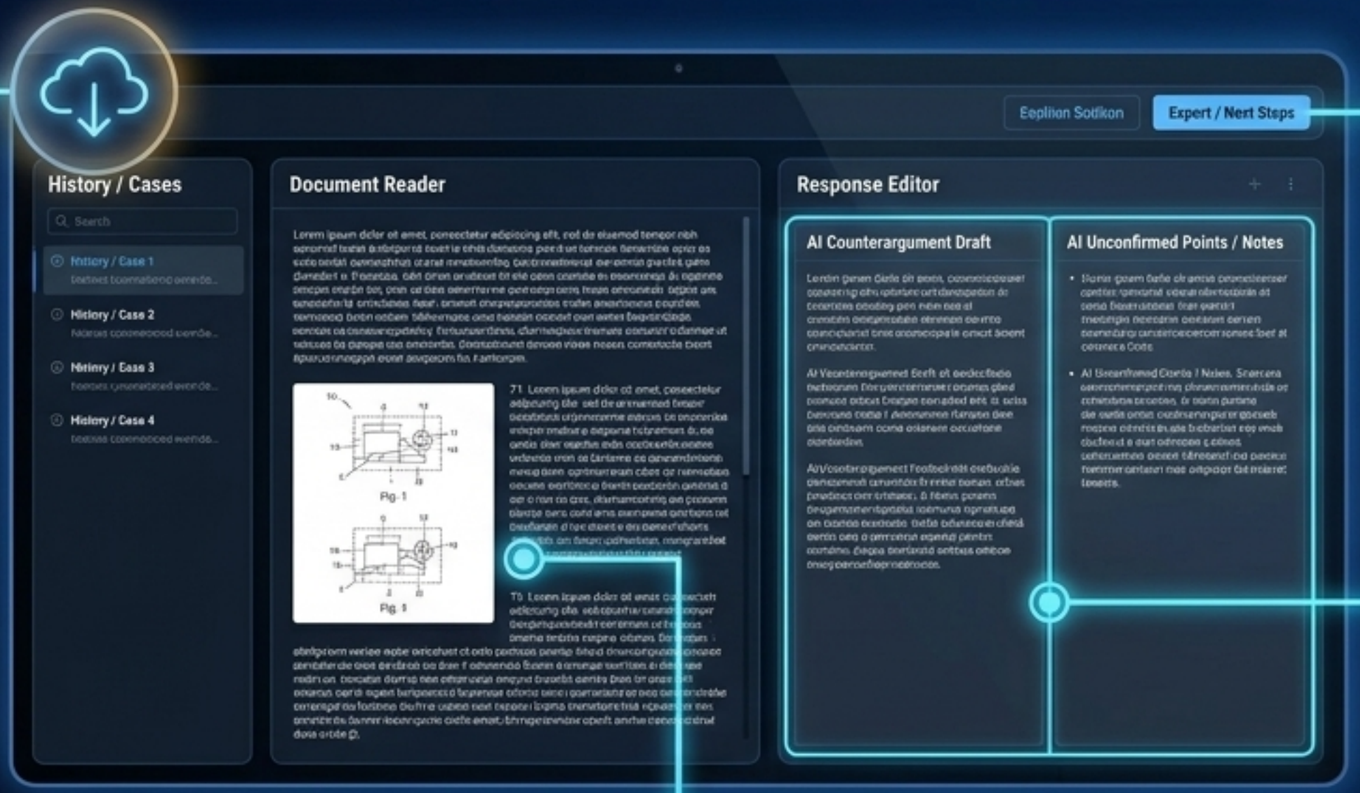
結論: 「人間による確認不要」ではなく、「語彙補完による取りこぼし防止」として用いるべき。

Gemini Notebook

【中間処理の変革】拒絶理由通知対応の一気通貫化

① 包袋情報のAPI直接取得

特許庁APIや連携ツールによる日米包袋の直接インポート・機械翻訳。



② 原図と段落番号のインライン提示

引用文献のテキストだけでなく、該当する公報図面と段落番号を直接表示（別画面照合不要）。

③ 分割エディタ

右側の成果物ペインに「理由ごとの反論構成」と「AIが確認できていない点」を明確に分離して生成。直接編集・版管理対応。

④ 権利化・無効化機能への連動

審査官ラボの統計データ連携、クレームチャートを用いた無効化・情報提供書面案へ自動連動。

Gemini Notebook

【境界線図】AIの有効範囲と人間の専門判断

人間の専門判断（不可欠な領域）

解釈

審査官の意図や通知書にない
微妙なニュアンスの読み取り

進歩性の判断

技術分野の近接性や動機付けを
踏まえた総合的判断

戦略・責任

「どこまで権利を維持するか」の
事業戦略と最終的な法的責任

--- 弁理士監督下の法的境界線 ---

AIの有効範囲（処理領域）

読解・構造化

外国語文献を含む引例の
課題・解決手段・原図の抽出

認定作業

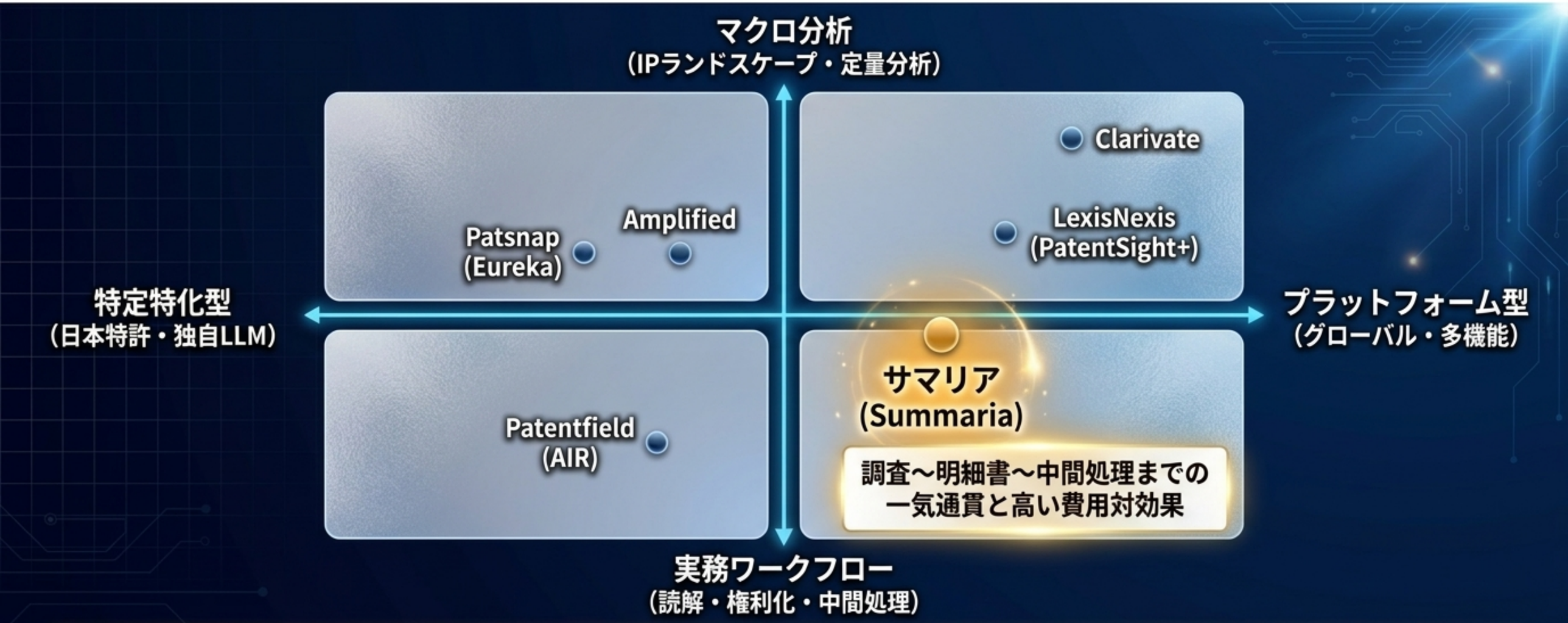
請求項の構成要素分解、
引例との一致点・相違点の整理

抽出・提案

本願からの補正ポイント抽出、50
以上のルールによる記載不備チェック

Gemini Notebook

【市場俯瞰】グローバル知財AIランドスケープ



戦略的インサイト：サマリアは現場の実務基盤（調査・権利化）として極めて優れる。高度なマクロ分析（IPL）においては、他社の専業分析ツールとの「補完・併用」が最も堅実な全体設計である。

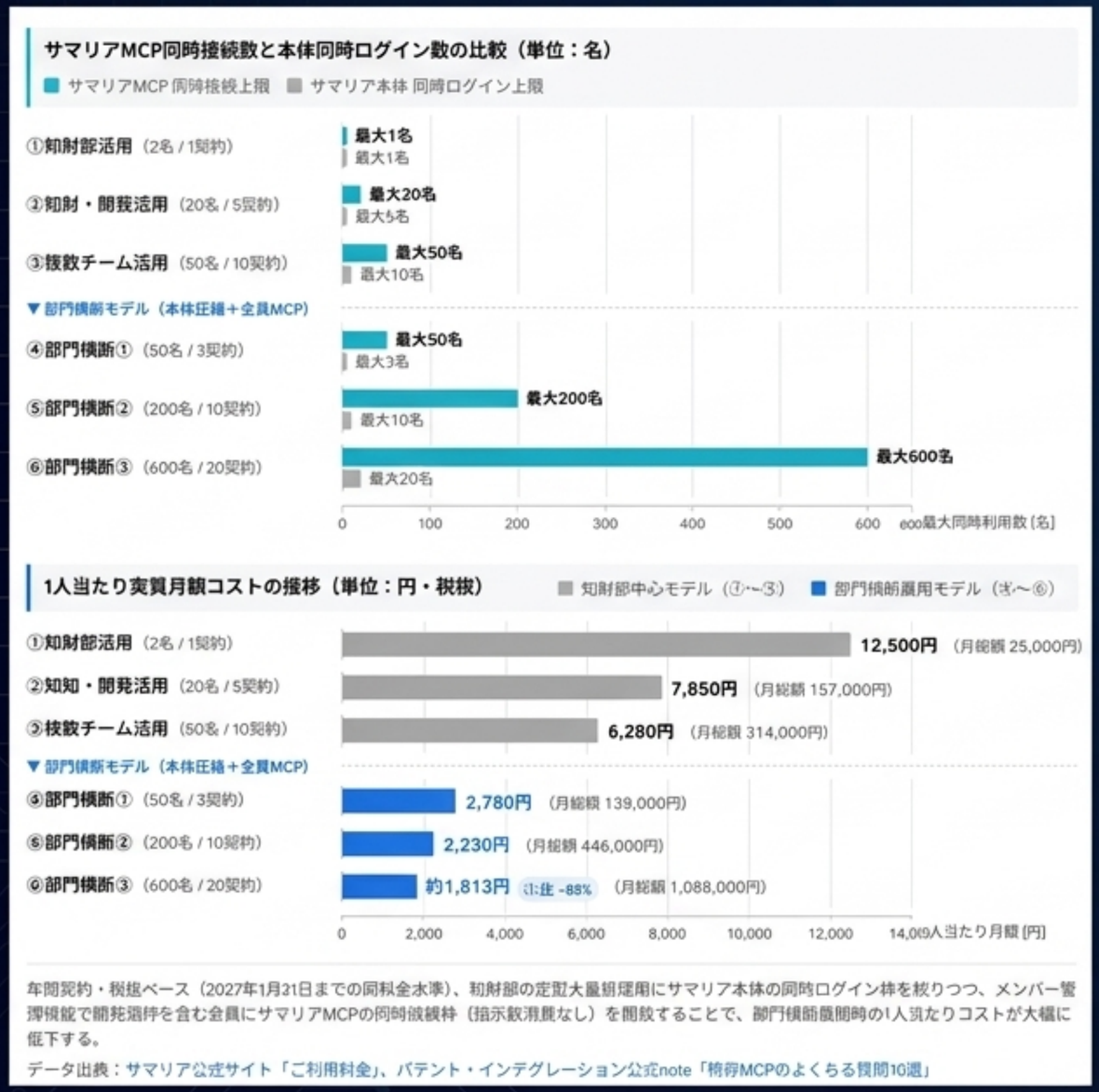
Gemini Notebook

【統合シナリオ】次世代マルチAI活用法 5つの実践モデル



Gemini Notebook

ガバナンス１：ライセンス最適化と部門横断展開



部門横断展開（600名規模）での圧倒的コストパフォーマンス

約1,813円/人

（月額・税抜）/ 1人当たり実質コスト -85%

コスト最適化のロジック：

「本体アカウント（同時ログイン上限あり）」と「メンバー管理（MCP接続数無制限）」を分離設計。知財部向けの大量処理枠を絞りつつ、R&D部門全員にMCP（指示数消費なし）を開放することで、利用枠の枯渇を防ぎながら劇的なコストダウンを実現する。

Gemini Notebook

ガバナンス2：セキュリティとコンプライアンス要件

1. セキュリティ・データ保護

- AWS東京リージョンでの稼働、ISMS認証取得済。
- サマリアMCPの完全ZDR対応（検索式・本文・会話履歴の非保存）。
- 外部AI学習への非利用確約。

2. 法令遵守（コンプライアンス）

- 弁理士法第75条（非弁行為禁止）への厳格対応。
- AIの出力（意見書案等）は「たたき台」とする。
- 最終的な法的判断および特許庁への提出書類仕上げは、専門家が必ず行う運用規程の徹底。

3. 運用保全とPoC推奨

- 実課題を用いた6〜8週間の比較PoC（概念実証）の推奨。
- Patsnap等の他社ツールとの併行検証。
- 成果物（Word/Excel）の定期的なエクスポート保全によるBCP対策。

Gemini Notebook

Next Steps & Action Plan



全社展開を見据えたコスト最適化のため、
早急なPoCと1月中の見積取得を推奨します。

**AIは知財の作業を代替し、
知財部門を真の『戦略パートナー』へと引き上げる。**

Gemini Notebook